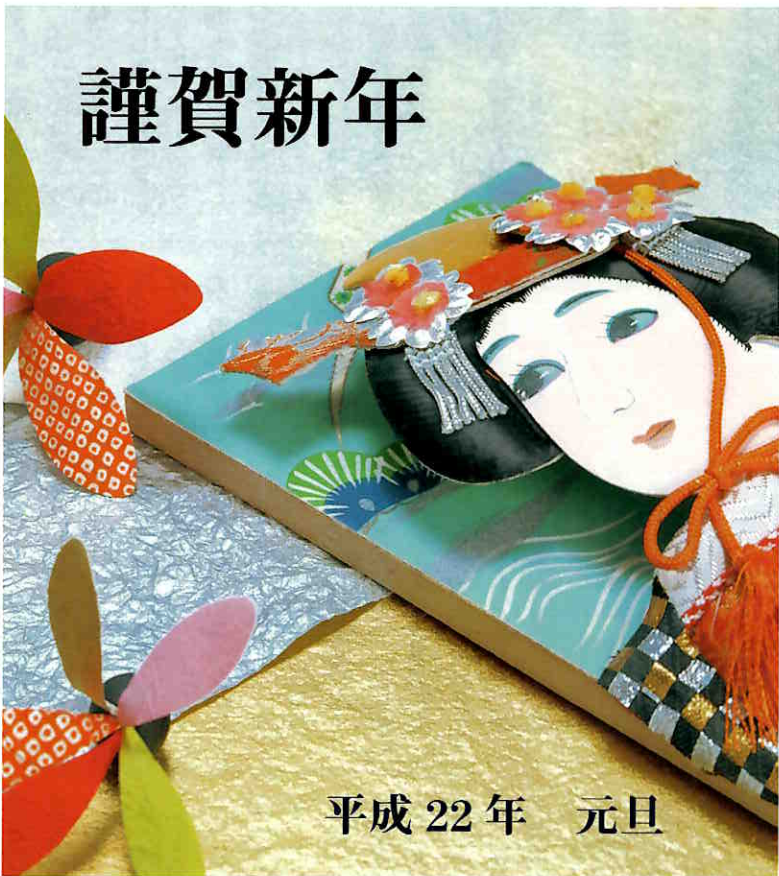




発行所 蒲田1丁目29番8号
 東京都大田区蒲田(代) 7821
 電話 (3732) 7821
 蒲田工業協同行業協会
 編集及編行委
 田工集誌 田道所
 機編関増 田刷
 印刷 中央
 東京都大田区中目5番1号
 城南大南印刷工業株式会社



謹賀新年

平成22年 元旦

年頭ご挨拶



蒲田工業協同組合
理事長 増田道造



謹んで新年のご挨拶を申し上げます。

組合員並びに木鷄会の皆様にはお健やかに新年をお迎えのことと心からお慶び申し上げます。

二〇二〇年が始まりました。円高、

減産の嵐と経営を取り巻く環境は大変厳しい試練が続いておりますが、今年もチャンスは溢れています。試練の乗り越え方は受動的、能動的大きく二つに分かれますが、「攻め」の心を忘れずに試練も「よくいらっし

やいました。」とアクティブに乗り越えたいものです。

昔の人はよく言ったもので「笑う門には福来たる」です。心身に及ぼす笑いの効用は科学的に証明されているということですから、今年は笑って、動いて、汗して、次なるステップにチャレンジを続けたいと思っております。

また昨年は一つの節目となる組合設立六〇周年の記念行事を和やかに盛会に開催することができました。これも偏に組合員はじめご関係皆様のご協力の賜と感謝申し上げます。先輩方から継承した貴重な歴史を近年力をつけてきた若手に託すべく今

新春座談会

司会 明けましておめでとうございませう。

今日はご多用のところお集り頂きありがとうございます。

一昨年の金融危機から一年数カ月が経ったわけですが、昨年はアメリカではチェンジを掲げたオバマ大統領が就任して、日本では自民党から民主党政権、鳩山首相の誕生ということで大きな動きのあった年でした。非常に厳し

年も全力でサポートする所存です。

本年も皆さまと共に知恵を絞って組合のより良い運営に力を尽して参りますので組合員並びに木鷄会皆様の引続きのご指導、ご協力をお願い申し上げます。新年のご挨拶といたします。

目次

- 「年頭ご挨拶」 ①
- 「新春座談会」 ⑤
- 「木鷄会」 ⑥
- 「組合員だより」 ⑥
- 「業務報告」 ⑥
- 「掲示板」 ⑥
- 「年賀広告」 ⑦

い一年ではありましたが、昨年やり残したこと或いは新しくやってきたことなどからお話しいただければと思います。

私は、去年は大変な年になるだろうと、なるべくお金を使わないと思っただけで、工場の補修など皆さんやっていました。工場のお金も出したいとジツとしていました。この年末から少しは変化があるかと思っておりますが、大きな変化はまだなさそうです。何も出来なかったのが去年だったと反省しています。

A 私は攻めました。お金は無いですが、設備投資で千八百万位つき込んで、トライアル採用で一人入れ、ということとで果敢に攻めたつもりです。ジツとしてちゃダメだよいつもDさんから言われているので、その通りに動きま

した。業績は悪かったのですが、松下幸之助であれ本田宗一郎であれ「不況の時はチャンス。その時に何をやるかが次に繋がる」というのを見習ってやりました。その結果今年にどう結びつくか解らないですが、真田先生が言っていたような二次不況にはなっていて欲しくない。ただそう言った時の基礎体力は身につけておかないといけないと感じています。もっと体力を身につけるということと光が見えてきたときの攻めの部分、如何に早く攻めていくかを見極めようと思っています。

B 私は攻めと守りと両方やってきたつもりです。社長になって二年足らずなので過去との比較は出来ないですが、現状をみて何をやるべきかを考えて両方やってきました。特に今まで営業をしなくても機械が売れていた時代が何十年も続いていましたから、営業のスタイルも確立してない状態なので本来機械メーカーがするべきことの原点から見直して、将来のために今やるべきことをやっています。社員の人々には無理をさせているところがあるので、将来上向いてきた時には恩返しをしたいという思いで、ポジティブな気持ちで動いています。数字が付いてこないのが一番辛い。幸い先代からのクッションになるものがあるので持ち堪えています。

司会 Bさんのところは顧客が決まっている業界なのかという気がしますが、他の分野ということも考えていますか。

B 産業構造と同じような変化で顧客は変わってきています。元々は軽産業、家電が元気な頃は家電、一昨年までは自動車の部品が多かった。今自動車は受注も殆どない状態。次に何が伸びているか、環境であったり、成熟していますが半導体であったり、そのシェアを伸ばして行きたいと思うし、ロボット産業

にも期待をしています。

ファッション業界も郵政省の砲とは昔から縁があったので、やることは今までと同じでも切り口を変えて新しいイメージを作っていたらと思います。

C ウチは悪くなってから最初にやったのは「技術を上げよう」「出来ない人がステップアップする努力をしよう」もう一つは「意識改革をしよう」ということで、皆の意識がちゃんとしてないと良いものが作れない。良い物を作れば製品を買ってくれる人が必ず喜んでくれる。喜んでくれてお金が増えれば自分も良くなるという意識改革。それと「気がついたことは手を上げる」「得意先に対しても提案」を頭の中において、疑問を持ったら相手に投げかける。見積もりを取るにしてもこちらから投げかける。得意先の製品を確認して少しでも違ったら直に提案する。そういういうことで不良を無くして、良いチームワークが作ればと思つてやってきました。

設備投資はお金が無くて出来なかったのので整理整頓をしました。気がついたところはお互い指摘し合つて、年配者も若年者も関係なく話し合えないと仕事が良い方向に向かない。時間があるなかでその辺が出来たと思います。

我慢して良くなった時に良い結果が出せるように準備をしている。提案とかをしていれないキャパの中でも十分仕事は取れると思つています。

司会 厳しい中でそういう努力が相手に認められるというこちらの意識と得意先の感覚がイコールかどうかは難しいところで、当然認めて欲しいけど、得意先の今の人事移動早いですよね。認めてくれた人がすぐに移動する。

一対一で話をするのではなくて、周りの人も交えていかないと難しいと最近すごく感じています。

D 私は「ジツ」としていたらマイナスになる」という捉え方をしています。イーブンになるためにお客さんの満足度を上げよう、金が回転して行けば良いと考えて設備投資しました。この年末に大型の受注案件に結びつきました。これは一年間の仕事。元は取れませんが設備投資は一年で回収出来ない。リーマンから始まったこの嵐、昔のサイクルならジツとしてれば良かった。今はグローバル化して世界でやっているから、気がついたら今までの半分の仕事は海外に行ってしまった誰かがこなししている。日本に残るものが少なくなるわけだから自分が何かアピールしないと今まで通りには自分の処に来ない。ジツとしてたらマイナスになってしまうという危機感があります。

それが工業会全部に共通するとは言えませんが単位が縮まっていることは確か。皆で分け与えるということはない。誰かが今まで通りやつたとすれば、同業他社が仕事を失っている。攻撃して初めて今までの自分の商いが維持出来る。攻撃は自分を守るための投資であり改革だと捉えている。今年から来年にかけても同じような挑戦をしていかないとイーブンにはならないと考えている。

大田区の中を見させてもらうと、待っている企業が多く、危機感を感じます。前のような景気循環はない。待っていたら辛い結果になると思う。事ある毎に「攻撃しないと駄目だ」と口にしてはいるし、自分も実践しているつもりです。

E ウチは販売が主体になるわけで、製造の平均的な数字に倣っている状態ではありません

が、幸いにして大田区は活発な部分もあるお陰で結果としてイーブンになった。今年これからどうかということを見ると、皆さん堅実にバランス良い経営をしているし、我々の仲間の中では幸いにして数年倒産している会社が無いのは技術力と、我々の会で学んだ原理原則、天寿を全うしてしまつた方も多いけど、その諸先輩からの風土は残っているのではないかと思う。

今、団塊の世代の人達が退職したり、亡くなっている人が多い現実の中で、残っている人は素晴らしい経営をしていると思います。今年真田先生も言っていたようにマニュアル化出来るものは海外に、マニュアル化出来ないものを大田区の人たちはやっていると感じているので生き残っていくと確信しています。

F 去年名古屋に行つてオークマを見学してきました。オークマでさえ週二日の稼働でした。大変な状況の中で、中国特需で機械四千台も中国から注文が入っていた。いかに中国が物づくりを持って行つちやっているかの一つの証しですよ。今、工作機械は半値の時代ですが、四千台の機械は一番安い機械で、日本から機械の治具を持って行って付けて載せるだけという形。

そんな中で我々のところは仕事量三割ですよ。自分の体質を三割削つて、売上半分でも利益が上がるシステムを作ることがまず先決。今までの業務改善とまったく違つたものにしなくて利益を上げることは出来ない。

経費をいかにして減らすか。どういう形で発想の転換が出来るか。黙っていると仕事は中国に行つちやう。物づくり受難の時代であることは確かなんです。売上半分で利益を上げることが達成出来るかどうか。達成出来

たところが生き残る。

A 生き残りゲームですね。物をつくるのは何処でも出来るという感覚ですよ。

F 大田区が生き残るにはどうしたら良いか。中国の単価で日本は仕事出来ないよね。中国に仕事を貰いに行く時代なんだよね。

ジーンズが五百円とか六百元とか、リーバイスとかのメーカーが潰れちゃうのじゃないかと言っている。ポプソンなんかは売上が落ちていっているという話だし。岡山でジーンズを染めているんですね。藍染めね。

D 二極化するんですよ。六百元の物は六百元で作れる所で作る。二万円のものを買いたい客に二万円のものを作る。二万円の物を彼らが海外では作れない。大連はこのまま行くと十年もたないと云っている。限られた物でプラント持って来て作るだけだから。上海と同じように賃金が上がっているんですよ。次はベトナムに行く、インドに行くって見ている人がいる。中国やインド、ベトナムで出来るものを大田区で作っちゃいけないということですよ。そこが売上五割で利益を上げる、付加価値がある仕事を確保する以外ないということですよ。

六十年のあゆみ

司会 物を作る会社の数は少なくなっているし、私の業界の型業界も狭くなっている。今、色々な企業を見せて頂いて、どういう仕事があるのか点検を始めている。型業界だけでは飯を食っていけないと感じています。少し遅いとは思いますがそういう動きをしています。

各業界によって色々違うと思いますが、未来が明るくなると良いですね。

去年組合の六十周年がありました。あれだけ大勢の方に参加して頂いて皆さん明るい顔して一堂に会したのは一つの成果だと思えます。

D 六十年の歴史、我々そういう環境の中にいて育てられてきたことを感じます。先ほど

Eさんの話にもあったように、酒の飲み方から、経営の仕方、人間とはどうあるべきかとかを教えてもらって、亡くなった人も多いけど確かに教えは残っている。

今回は声を掛けて、あれだけの人が来てくれて歴史と厚みを感じた。こんなご時勢でお金を使って良いのかどうか悩みはしましたが、皆さんも何かエネルギーを買ったんじゃないかと思えます。やって良かったし今後も教えを皆さんと一緒に継承していきたいと思えます。

C 私は司会を経験させて頂いて、先輩から「良い六十周年だった」と声をかけて頂きました。皆が集まれて話が出来て、若い人と一緒に次のことを考えていく場に居られるのはありがたいとか、来賓の各団体の方にも素晴らしいかと思えます。

記念パーティー



らしい会だと声をかけて頂きました。皆さんと反対側で司会をしていて、ご夫人が同伴ですごく和やかで、終わった後会場を出て行かれる時も余韻があつて、ああいうことはなかなか無いと思いますよ。

司会 亡き先輩方の奥様や現役のご夫人も参加してくれて華やかでしたね。普段みえない方も参加してくれて初めてお会いする方もいらつしやう。

E 経営と同じように「攻め」をして相談役と理事長が組合員を回ったこと、特に暑い日でしたよね。それが成功の第一。あとは若い人にある程度任せられたのも良かった。昔と違って女性のいるところに飲みに行つて高いお金を使う時代じゃないし、特に女性の地位が上がつていて、ご夫人の嫌嫌を損ねると家庭が崩壊という時代を迎えているので経営者も做つて、そういう意味では変わりつつあると思います。

先輩方も年を重ねてからは七福神巡りをしていました。平和島でのパーベキュー大会を始めてとして家族包みの付き合いが行われてきている。この会を中心としたスピニアウトした、例えば去年の、レースを見に行つたり、年間スケジュールにはないところでの工場見学とか、これが活性化の現れで、原則を重視しつつ自由に行動して行く。今年も更に継続、発展させていけると思います。

司会 六十周年に出られた方が、今年の行事に出ただけだと良いですね。賀詞交歓会とか総会とか。お酒も入つて明るい雰囲気の中でお話が出来るというのは非常に良いと思うのですが。

A 賀詞交歓会に皆さんに参加して頂けると良いですね。私が生まれる前からある組合なんですよね。普段、会に普通に出ていますか、

すごいんだなと実感しました。一年に一度でも出てきていただけると嬉しいな。

C 昔の方つてよく「オイッ」とか「オマエ」とか多いですね。ウチの会の方は挨拶をしてくれたり、何かすると必ず「ありがと」と言ってくれる。そういう接し方をしてくれるので近づき易いし、だからこそああいう六十周年になったと思います。これは今後自分にも言い聞かせていこうと思いますね。

D みんな若い時があつたんだよね。付いて行けないとか、色々な意味で激励されたんだよね。

今年の賀詞交歓会も誘いあつて、一人でも多く集まるということが継続だし、考え方として他力本願じゃなくて皆で汗かいていくことが必要だと思う。若い人が動いて汗かこう

11010年は…

司会 そういう動きが出来ると思います。今年、キーワードはグローバルな地球温暖化、環境の問題と、高齢化、少子化、教育といった国内の問題に分かれる。大田区では羽田の国際化、ハブ化が大きなテーマでどんなシナリオになるかということですが、企業中心の政府のお金の使い方から各家庭個人にシフトしてきた形が我々企業にとつてしばらく厳しいのは事実です。

A 今年も引き続き攻めていきたい。童門冬二さんの武田信玄「人は城、人は石垣、人は堀」を守つて行きたい。人を育てることが第一ですね。

それと作りたい製品があつて開発ということ

とで、始めたいと思つています。トライしたいと思つています。

本業では待ちにならない。要はPDCA、プランしてD0してチェックしてアクションをしっかりとやって、狙つた獲物は逃がさないということをやつて行きたい。

D 挑戦するのはいいね。

B 今年は次の世代に今の会社をバトンタッチ出来るように、少しでも黒字になるようにしたい。環境対応の新しい物を作る構想がある程度出来ているので、投資すべきかどうかという時に行政とかが応援してくれるのなら使わない手はないと思う。

D 補助金を使つて欲しい人がいる。そういう場面、情報に自分から近づかないといけない。Bさんは大田ブランドへ出たり色々な事にアクションを起こしているのは近づいていくこと。チャンスがあるし、外へ出ると棒に当たる。色々な可能性があるから是非やってみて欲しい。

C 私は今年に限つて何かをやるよというのには正直言つてないのですが、この会に入らなければ、ウチの会社は今無かつたかもしれないと思つています。自分自身に自信が無かつたし遣り甲斐を求めて仕事をすると意識が無かつたんですね。先輩方から色々な事を学んで「自分の出来ることからやってみる」「脚下を見る」「落ちてくるゴミを拾うことから始めても良い」ということから始めた。この仕事はお付き合いがあるからやらなきゃいけないとか、そんなものではない。やつて駄目なものは辞めなさい。スペースを空けなさい。スペースを空けることによって新しい仕事が入る。利益率を上げることをしないと会社は駄目になる。

父から受け継いできた仕事関係を頭を下げて辞めさせて頂いて、新しい仕事を入れる努力をした。少ない仕事をこなす中でも利益を上げることが出来たので、この悪い状況の中でもなんとか乗り切れた。今、同業者が少なくなつていて、辞めていった所の仕事は特にウチに来ます。90%以上は受け取れません。スペースが空いている部分に入りたいと思うこともありますが、入れると残業しないといけない。環境的な問題に社員その他自分達が厳しい環境の中での仕事なので、残業を入れないとやつていけないとなつたら、その時は仕方がないと思つている。今までやつてきたことを続けようと思つています。

D 値段で競争をさせられているけど、競争はしたくない。お客さんがウチに仕事を出したいと思う会社になりたい。コストが多少かかつても、二酸化炭素削減とか、地球に優しいという切り口はある程度の幅の中なら「選ぶよ」というのがお客さんにはある。切り口をどうアピールするか。日本で残る仕事はウチに来る道を作るには、例えばR0HS対応だとかが絶対条件になつていく過程でそれを盛り込みたい。もうISOじゃないんだよね。

C 今度はREACH対応ですもんね。逆に言つたら町工場の方がそこは出来ると思つていますね。狙い目ですね。

D そういう切り口で差別化して行くというのが今年の大戦略だよ。何処でも同じ設備でやつているわけだから、ある程度の仕事を確保しないといけない時に、顧客満足度はコストだけじゃないんだよね。エゴが一つの切り口になると思つている。

今年もう一つセールスポイントがあつて、お客さんが今まで苦労していた部分、在庫管理まで含めた物づくりをする。お客さんがパ

「トナー」と言ってくれるとこまでやろうと思
う。そこまでやっても今までの受注金額が確
保出来るかどうかは解らない。まだまだライ
バルが頑張っているから、顧客満足度を上げ
る年にしたい。反応をみながら、お客さんと
会話しながらやっていくことと思つ。

E 私はこういう座談会に出席させてもら
う機会が多かったなかで感じたのは、昔は結
構理屈が多かったと思う。経営の話は理論が先
に出て行動が伴っていないと感じることがあ
った。今回、数年ぶりの座談会でメンバーが
半分入れ替わっているのにも拘らず、現実味
が伴っていて良かったと思う。

司会 歴史を知っているEさんがメてくれま
した。蒲田工業協同組合の幹部の方がまだま
だ元気でいらつしやる間に色々勉強させて貰
えれば良いかなというところで、今日はどう
もありがとうございました。

出席者

(五十音順・敬称略)

大谷 文雄

(株)大谷造機所

荻野 茂

(有)富士精機製作所

小林 章彦

(株)日章機械

高原 隆一

弘機商会(株)

田村 知之

(株)タムラエジア

増田 道造

岡田 敏金(株)

望月 直人

(有)望月塗工研究所

木鶏会々長ご挨拶



会長
田村 知之

新年明けましておめでとつございます。

時の流れは早いもので若輩者の私が木鶏
会々長をして今年三月で四年になります。ど
うにかこうにかこままでやってこれたのは先
輩や同世代の人たちの支えがあったからこそ
であり、皆様には本当に感謝しております。
一昨年のリーマンショック以降いまだ景気回
復の兆しが表れておりませんが、今こそ「木
彫りの鶏」になるが如し…自身を見つめ直す
良い時期だと思っております。二〇一〇年も
組合員の皆様のご健勝ご発展をお祈り申し上
げます。

木鶏会の由縁

紀渚子(きせいし)という人が闘鶏の好き
な王(周の宣王といわれている)のために軍
鶏(しゃも)を養って調教訓練してありまし
た。そして十日ほど経った頃、王が『もうよ
いか』と聞きまししたところ、紀渚子は『いや、
まだいけません、空威張りして「俺が」とい
うところがあります』と答えました。さらに
十日経って、また聞きました。『まだだめで
す。相手の姿を見たり声を聞いたりすると昂
奮するところがあります』。また十日経って

聞きました。『まだいけません。相手を見る
と睨みつけて、圧倒しようとするところがあ
ります』。こうしてさらに十日経って、また
聞きました。すると初めて『まあ、どうにか
よろしいでしょう。他の鶏の声がしても少し
も平生と変わるところがありません。その姿
はまるで木彫の鶏のようです。全く徳が充実
しました。もうどんな鶏を連れてきても、こ
れに応戦するものがなく、姿をみただけで逃
げてしまふでしょう』と言いました。



往年の名横綱双葉山関がまだ横綱になる前
の人氣が出てきた頃に一緒に飲んだ時、つい
一杯機嫌で、『君
もまだまだだめ
だ』という、さ
すがに大横綱にな
るだけあって『ど
こがいけないので
すか』と慫慂(い
んぎん)に尋ねて
きた。そこでこの
話をしたところ、
大層感じ入って、
それから木鶏の修行を始めた。

ヨーロッパに向かう旅のインド洋を航行中
のある日、双葉山から「イマダモクケイにオ
ヨバズ」という負けたことを報せる電報が届
いた(六十九連勝で止められた。
この話がたちまち船中に伝わり、晩餐会の
席で大勢の人にせがまれて木鶏の話させら
れた。

その後双葉山の木鶏の話が自然に広がり、
あちらこちらに鶏ならぬ人間の木鶏会ができ
ました。

(安岡正篤氏エピソード)

木鶏会の活動

一月十三日

1 新春講演会

講師 京都大学 中西輝政教授

テーマ 激動する世界と日本存立の条件

2 新春賀詞交歓会

二月十日

正副会長会議及び定例経営サロン

1 平成二〇年度決算報告について

平成二十一年度予算案について

全員異議なくこれを諒承

2 総会開催日並びに講演会講師について

3 定例経営サロン

講師 弁護士 関口正人氏

テーマ 遺産相続と遺言の基礎知識

三月十日

1 木鶏会総会

2 講演会

講師 ジャーナリスト 高山正之氏

テーマ ものづくりから国づくり

3 懇談懇親会

四月十四日

定例経営サロン

田村知之之会長担当

六月九日

正副会長会議及び定例経営サロン

1 工場見学並びに納涼サロンについて

2 定例経営サロン

講師 キャリアアドバイザー

蛭田敬子氏

テーマ 社員をやる気にさせる秘法

六月二十・二十一日

青年部懇親旅行開催

七月八日

場所 修善寺

1 工場見学

見学先 岡田鋳金(株)茨城工場
2 納涼サロン

会 場 銀座エスコフイエ

九月八日

定例経営サロン

講師 愛知淑徳大学 真田幸光教授

テーマ 景気の動向と国際情勢

九月十三日

チームタイサン応援ツアー開催

場 所 富士スピードウェイ

十月十三日

正副会長会議及び定例経営サロン

1 忘年会について

2 新春講演会について

3 定例経営サロン

講 師 蒲田消防署 佐野和男司令長

十月十六日

工場見学

見学先 (株)イスマンジェイ

十一月十日

定例経営サロン 荻野 茂副会長担当

十二月八日

忘年会

会場 駒形じょう



代表者変更

株式会社気球製作所

旧代表者 豊 間 茂
新代表者 豊 間 清

株式会社東京精密器具製作所

旧代表者 西ヶ谷 好 隆
新代表者 西ヶ谷 邦 夫

株式会社鳥海製作所

旧代表者 鳥 海 保 男
新代表者 鳥 海 哲 司

計 報

鳥海 やゑ 様

株式会社鳥海製作所取締役鳥海保男氏ご母堂様はご逝去されました。謹んでご報告申し上げますと共に、ご冥福をお祈り致します。

海老名 信緒 様

エビナ電化工業株式会社代表取締役海老名信緒様はご逝去されました。謹んでご報告申し上げますと共に、ご冥福をお祈り致します。

業 務 報 告

一月十三日

1 新春講演会

講 師 京都大学教授 中西輝政先生

組合員だより



テーマ 激動する世界と日本存立の条件

2 新春賀詞交歓会

一月二十七日

講演会

講 師 高嶋易断香月流主宰 高嶋香月氏

テーマ 不況を乗り越切る運気のつかみ方

四月二十七日

常任理事会

1 平成二十年度事業報告・決算報告・剰余金処分案承認の件

全員異議なく承認

2 平成二十一年度事業計画案・収支予算案承認の件

全員異議なく承認

3 平成二十一年度借入最高限度額決定の件

一 組合員に対する貸付最高限度額決定の件
手数料最高限度額決定の件

全員異議なく承認

4 六十周年記念総会、講演会開催の件

四月二十七日

理事会

議題は常任理事会上程のもの
全員異議なくこれを承認

五月十二日

1 平成二十年度通常総会

可決事項全員異議なく諒承

2 講演会

講 師 ジャーナリスト 大宅映子氏

テーマ 変わらなきや、これからの日本

3 六十周年記念パーティ

六月十五日

理事会

1 六十周年記念事業の收支報告

2 団体定期保険の件

七月十六・十七日

定期健康診断の巡回

十一月二十一日

十五年以上勤続優良従業員に対して区長から感謝状贈呈(敬称略)

(株)東京精密器具製作所

秋山真理子、山内義行
(株)大産工業

田口由里子
(株)ユタカ製作所

林達明、松崎和枝、吉田健太郎



年末・年始事務取扱のお知らせ

年末・年始の組合事務局の事務取扱日は左記の通りとさせていただきます。

記

年末 十二月二十八日(月)まで

年始 一月五日(火)から

新春講演会

新春賀詞交歓会のご案内

記

日 時 平成二十二年一月七日(木)

午後五時〜 講演会

六時四十分〜 賀詞交歓会

会 場 プラザ・アペア

テーマ 二〇一〇年を展望する

講 師 京都大学教授

中西 輝政先生

会 費 五千円

講演会のご案内

記

日 時 平成二十二年一月二十七日(水)

午後六時三十分〜

会 場 プラザ・アペア

講 師 高嶋香月先生

会 費 二千円

工 業 蒲 田

謹んで新年のご挨拶を申し上げます

蒲田工業協同組合

(五十音順)

尼寺空圧工業株式会社

尼 寺 実

株式会社新井久四郎鉄工所

新 井 陽 一

イーター電機工業株式会社

北 川 浩

株式会社エヌシーネットワーク

内 原 康 雄

株式会社エヌエスシー

村 岡 章 夫

荏原工業株式会社

長 井 俊 樹

株式会社大谷造機所

大 谷 文 雄

岡田鋳金株式会社

増 田 道 造

金勝産業株式会社

金 勝 恒 男

有限会社川村製作所

川 村 有 史

株式会社気球製作所

豊 間 清

株式会社清川製作所

川 瀬 純 一

株式会社極東精機製作所

鈴 木 健 一

京浜技研工業株式会社

山 下 政 和

有限会社京浜铸造所

神 道 晃

有限会社京浜プレス工業所

斉 藤 喜 久 雄

株式会社弘機商会

高 原 隆 一

株式会社浩伸技研

森 田 淳 司

佐々木発條株式会社

佐々木 毅 彦

株式会社サタコ

青 沼 三 郎

産業医・医学博士

佐 藤 精 一

株式会社三栄精機工業

今 田 謙

株式会社三協アルマイト

岩 崎 登 喜 雄

株式会社三和産業

河 本 正 吉

杉谷金属工業株式会社

杉 谷 宗 弘

有限会社須藤製作所

須 藤 敏 男

第一金属工業株式会社

菅 谷 義 弘

大産工業株式会社

千 葉 泰 常

大志工業株式会社

沖 山 裕 夫

大進精機株式会社

宮 田 実

謹 賀 新 年

蒲田工業協同組合

(五十音順)

相 談 役

西 ヶ 谷 勝 美

理 事 長

増 田 道 造

副 理 事 長

大 谷 文 雄

副 理 事 長

荻 野 茂

専 務 理 事

小 林 章 彦

常 任 理 事

須 藤 敏 男

常 任 理 事

長 井 俊 樹

理 事

新 井 陽 一

理 事

岩 崎 登 喜 雄

理 事

加 藤 進 弘

理 事

斉 藤 喜 久 雄

理 事

菅 谷 義 弘

理 事

竹 内 榮 多

理 事

田 村 知 之

理 事

鳥 海 保 男

理 事

野 口 広

理 事

望 月 直 人

監 事

飯 室 肇

監 事

鈴 木 健 一

監 事

高 原 隆 一

事 務 局 長

沢 登 正 彰

謹んで新年のご挨拶を申し上げます

蒲田工業協同組合

(五十音順)

大成工業株式会社

鎮 目 哲 郎

株式会社瀧口製作所

瀧 口 利 彦

株式会社タムラエンジニア

田 村 知 之

株式会社タンケンシルセーコウ

渡 邊 敏 廣

株式会社中央テクニカ

木 戸 克 子

ティヴィバルブ株式会社

竹 内 榮 多

株式会社寺岡精工

寺 岡 和 治

同和発條株式会社

川 嶋 治 彦

東亜株式会社

小 柳 隆

株式会社東京精密器具製作所

西ヶ谷 邦 夫

株式会社東京ハードフェイシング

吉 田 裕 二

有限会社巴精工所

武 市 孝 雄

株式会社鳥海製作所

鳥 海 哲 司

株式会社中谷機械製作所

中 谷 和 彦

永森電機株式会社

永 森 忠 臣

南旺工業株式会社

林 隆 史

株式会社日産電機

中 村 國 男

株式会社日章機械

小 林 章 彦

日本チエン・ギヤー

無段変速機株式会社

加 藤 進 弘

株式会社羽田パイプ製造所

野 口 広

有限会社早崎製作所

早 崎 吉 春

深尾精機株式会社

中 井 富 士 夫

富士馬鋼業株式会社

宮 川 正 雄

有限会社富士精機製作所

萩 野 茂

株式会社富士テクノマシン

飯 室 肇

株式会社藤原製作所

藤 原 徳 一

株式会社文化精工

桑 原 久 直

有限会社豊栄精機製作所

澁 澤 達 哉

株式会社マコメ研究所

植 村 邦 哉

株式会社マサオプレス

宮 澤 章

有限会社松原精機製作所

松 原 栄 一

株式会社松原製作所

松 原 一 喜

三津浜工業株式会社

富 岡 恵 子

睦化工株式会社

古 川 亮 一

有限会社望月塗工研究所

望 月 直 人

有限会社師岡飯金製作所

師 岡 正 雄

株式会社ユーアイテック

打 田 正 隆

株式会社ユタカ製作所

谷 野 利 夫

株式会社ラビット

コマースサービス

河 原 清 志



HACCP 高度化基準認定工場

となんのお料理をどうぞ

都南工業給食協同組合

大田区南六郷三ー十五ー一

TEL 三七三二ー七四五ー(代)